

第2章 青少年育成の基本的な考え方

(1) 島根の青少年育成に向けた視点「スサノオ」

島根は、変化に富んだ豊かで美しい自然に囲まれており、また、全国に誇るべき文化財等が数多くあります。「出雲国風土記」や「古事記」等に見られる出雲を舞台とした神話もその一つと言えます。

神話の中のスサノオ（素戔嗚尊・須佐之男命）は、短所もあり失敗も重ねていますが、一方で、「ヤマタノオロチ退治」などに見られるように勇気や知恵、負の要素をも生きるエネルギーに変えるような力強さを備えています。このようなスサノオが、悩み、考え、そして行動する姿は、一生懸命に生きていこうとする現代の青少年にも重なって見えます。

本県の青少年には、豊かな歴史文化と美しい自然環境に満ちた郷土に誇りを持ち、将来の島根を担う主役として、自分の夢や目標を描きながらたくましく育てほしいと願っています。

こうした願いを込めて、島根の青少年の育成の視点として、「スサノオ」を提唱します。

育成の視点「スサノオ」

- ス 健全育成の「すそ野」を広げる。
- サ 誰もの「参画」を促す。
- ノ 青少年の「能力」を活かす。
- オ 自然や年長者の「恩恵」を受ける。

① **健全育成の「すそ野」を広げる ～大人の意識改革の推進～**

青少年の健全育成には、大人の意識改革が重要です。人が子どもを産み育て、他者と関わりながら共に社会を形成して生きていることの意味を改めて考えてみる必要があります。

同時に、現在の社会をつくったのは今の大人であることを自覚する必要があります。すべての大人が子どもに関心を持ち、次世代を育成する社会的責任を認識し、規範意識や社会のルールを守る意識を高めていくなど、健全育成の「すそ野」を広げる必要があります。自分の生き方や考え方を振り返り、大人自らが子どもの良き手本となることが必要です。

② **誰もの「参画」を促す ～青少年は地域で育む～**

今日の青少年問題は、社会構造や環境の変化等、様々な要因が複雑に絡み合って生じています。多様な子育てを支援する体制づくりや地域の子どもは地域で守り育む気運の醸成を進め、家庭・学校・職場を含めた地域全体で子どもに関わっていく必要があります。既存の青少年育成団体や指導者だけではなく、青少年を取り巻く様々な人々が「参画」し、連携・協力して具体的な取組を進めていくことが必要です。

③ **青少年の「能力」を活かす ～青少年の社会参画の促進～**

子どもは親とは別個の人格です。人としての権利を持つとともに能動的な存在として子どもをとらえることが大切です。自分の考えを持ち、自己を表現し、他者を理解し、他者に働きかけ、自ら行動していく、そうした子どもの「能力」を積極的に評価し、伸ばし、活かすことが必要です。大人がお膳立てした中で青少年が受動的に活動する過去の健全育成の在り方を反省し、青少年が主体となる活動や施策への転換を図る必要があります。

また、青少年がたとえつまずいても、自分で立ち上がり再びチャレンジできるきっかけを提供し、見守り、受け入れる社会づくりが必要です。

④ **自然や年長者の「恩恵」を受ける ～島根の特徴を活かした青少年育成～**

島根県においては、中山間地域を中心に、子どもが成長していく上での大きな糧となる豊かな自然や人と人とのつながりが比較的残っています。また、各地に伝統芸能や伝統行事が受け継がれており、他県に誇ることのできる歴史文化も数多くあります。様々な知識や技能を有し、地域の支えとして活躍している元気な高齢者も多く、高齢者の子育ての体験や知恵が家庭や学校、地域で活かされるよう、青少年やその親との世代を越えた交流を深めることは、青少年の健全育成を進める鍵となります。

ふるさとを愛し、地域の良さを守り伝えていこうとする青少年を育む上では、自然や高齢者等の「恩恵」を受けるなど、島根県の特徴を活かしていくことが必要です。

(2) 基本理念（青少年育成の目指す方向）

次代を担う青少年が心豊かにたくましく成長することは、すべての親の願いであるとともに、私たち大人に課せられた重要な使命です。青少年をめぐる現状と課題を踏まえ、このプランでは、県民の皆さんや関係機関・団体等との連携、協力のもとに次に掲げる青少年を育てることをめざしています。

- ① 自分の人生に夢や希望、目的意識を持ち、自分で考え責任を持って発言や行動ができる、**主体性・自律性**のある青少年

- ② 自分を大切にするとともに他者を尊重し助け合う心、自然環境等を守る心、何事にも感謝する心を持った、**人間性・協働性**のある青少年

- ③ ふるさと島根を愛し、地域社会に貢献できる能力、態度を持った、**社会性・創造性**のある青少年